

# 与論島の活性化について

教育学部家政専修 0716590140 町帆乃香

本レポートでは、集中講義である「島のしくみ」を受講した中で、5日間の与論島での現地の人の講義や自身の体験をふまえ、与論島の今後の活性化について述べる。

## 与論島の現状

1島1町のサンゴ礁に囲まれた与論島は鹿児島県の最南端に位置し、その自然の豊かさは決して他では味わうことのできないものがあり、現地に行ったことのある人のみを感じられる島の人々の温かさもある。島の財源は主に第一次産業と観光業から成り立っている。近年、農業の分野でサトウキビはもちろん、子牛の畜産の勢いが増し、この二つは今、島の産業の重要な位置を占めている。漁業の分野では、島の特性を生かし、その水揚げを徐々に伸ばし、ついに昨年目標の3億円を達成した。観光業では、その豊かな自然と美しい景色を生かし、H25年には5.4万人だった来島者数をH27年には6.0万人にまで伸ばした。

しかし、これらには問題が生じている。第一次産業では、容易に現状を維持することが難しく、病気の流行や自然災害により、急な生産高の下落が可能性としてある。何より、島という限られた土地の中で、畑や牛舎の面積を広げることは困難だろう。最大の危険は自然災害である。少し前には大型の台風が連続して接近し、第一次産業の分野でも数々の痛手を負ってきた。観光の分野では昭和47年の沖縄復帰をきっかけに一時、15万人の来島者は6万人ほどに減少した。近年徐々に増加傾向にあるとはいえ、全体的な目で見ると、減少の一途をたどっている。その理由として「より南の島」という観光志向が崩れたり、交通手段などのさまざまなニーズに遅れを取ったことがあげられる。

## 島の活性化のために

では、これらの現状をふまえ、与論島の活性化についての提案をしようと思う。まず、勢いの良い第一次産業はこのまま続け、その質を高め、特に近年伸びてきた子牛の畜産についてそのイメージを着実につけていけるように島の大きな産業としてアピールする。

そして、島の人口が減り続けている現在、やはり島に定住し、島のために働く人材が必要である。そのためには、子育てがしやすい環境を作ることが最も重要であると考えられる。そのために必要なことを2つ提案する。一つ目は、島で出産ができるような施設を整えること。大切な子どもの命をおなかにかかえる妊婦にとって、出産やいざというときに島内に産科医が不在ということは大きな不安となるだろう。まずは、定住でなくとも週に一度、島内で定期健診や相談ができる医師がいることは移住により周りに知人の少な

い妊婦にとっては大きな存在になるだろう。二つ目に仕事の提供である。島の面積の広くない環境ではやはり仕事内容も限られ、それに伴い世帯の収入に大きなダメージをあたえる。子育てに金の問題は必ずついてくるように、子供を持つ親の悩みのひとつでもあるだろう。そこで二つの仕事を提案する。一つ目に加工工場での仕事である。島で獲れた活きの良い魚やとれたての農産物をそのまま空輸したり船で他の島へ運ぶこともよいが、港の整備が十分でなく、台風や海の状況で思うように交通手段が動かないこともある与論島ではそれらの産物を無駄にしてしまう可能性がある。そこで港などに、獲れた魚を缶詰などにできる工場があれば、新鮮なものをすぐに加工した、という宣伝もでき、働き場が増えると考え。二つ目に、SNSやインターネットを使った情報発信である。特に子どもが幼く、仕事にでて家を空けることが不安な若い親に家でインターネットを使って与論島の情報発信をする仕事である。パソコン技術や情報に長けた若者の力を仕事という形で島のホームページの作成や観光客と島を結ぶ橋となれば、家で子育てをしながらでも行える。特に移住者は島の外から来た、ということもあり、島のことを島民よりもさまざまな角度からとらえることができるかもしれない。このように、子育て環境の整備は、ほかの様々な分野へと繋げることが出来る。高齢化が進む島をまず子育てがしやすい環境を整えPRをし、若い世代が増えれば島に活気が増えるだろう。

最後に

与論島の皆さんへ

5日間という短い期間ではありましたが、透き通る海に暖かい人の優しさ、水平線を見て地球が丸いことを実感したこと、たくさんの経験と思い出をいただきました。本当にありがとうございました。特に私は、時間によって刻一刻と変わる海の色に感動しました。同じ場所から見ても、波の高さ、荒さ、潮の満ち引き、サンゴ礁によってきれいに分かれた海の色、見ていて飽きないほどおもしろいものでした。また、個人的にも与論島に遊びに行きたいと思います。と一とうがなし。

町帆乃香